

過疎高齢化と震災による地域の人口減少と地域住民の活力の低下

— コミュニティのエンパワメント震災復興の第一段階としてのキリコまつりと地域の語り —

指導教員 金沢星稜大学 准教授 神崎淳子

参加学生	4 年					
	3 年	岩岸優太	奥森みいゆ	川原田大喜	釣谷陽春	利水輝
		伏田朱里	宮下瑞希	彌久保大河	矢田晴菜	山口智也
		米田貴広	加藤蓮	松永竜威		
	2 年	池守桃香	石野凌真	岩井理紗	尾角有彩	河村倫空
		島田歩夢	白井希愛	杉浦優	長田真依	中村花音
		林陽菜	東みらい	道井侑里	村田温大	山崎恵実花
		山下百花	渡辺莉央	山下俐空		

★プロジェクトチーム★
まつり参加者：4 年生 5 名

コミュニティのエンパワメント 震災復興の第一段階としての キリコまつりと地域の語り

金沢星稜大学経済学部 2024年度神崎ゼミナール

2年基礎専門ゼミナール 18名、専門ゼミナール3年生13名、4年生5名

★プロジェクトチーム★

加藤蓮・山口智也・岩岸優太・奥森みいゆ・伏田朱里・松永竜威・米田貴広

ゼミ紹介

私たちは人的資源管理・人の働き方をテーマにしたゼミに所属しています。地域の人が復興を実感（やりがい）したり、自分たちが住んでいる地域に誇りをもつ（コミットメント）するにはどうしたらよいかを考え、キリコまつりの実行と地域のかたと学生が話をする機会をもうける取り組みを行いました。

プロジェクトチーム

能登町宮地地区のフィールドワークに関わる、事前準備やデータの分析、報告資料の作成、報告などを行った。

右図 2024年度 専門ゼミナール事前準備風景



はじめに

宮地地区では、少子高齢化による人手不足により、キリコの担ぎ手が不足していたため、秋祭りの前夜行う「宵まつり」でキリコ運行ができなくなっていた。地域学習や単発的なキリコ運行を除くと30年近くキリコを動かすことが無く、キリコの運行に関わる地域住民が持つ知識や技能が継承されなくなっていた。神崎ゼミでは、2022年度にキリコまつりの歴史や地域の方にとっての意義についてのインタビュー調査を実施し、2023年度はキリコ運行の経験がある住民から、キリコ運行時に演奏していた地域の祭りばやしを記録、演奏方法の指導を受け、太鼓、笛、シャンギリをによるまつり音楽を引き継いだ。

2024年1月の能登半島地震により、宮地地区でも山の崩落や断水、家屋の全半壊などの避難を余儀なくされ、広域避難や仮設住宅への避難など地域を離れる住民もいる。一方で、春祭りをきっかけに避難していた住民が地域を訪れるなど、まつりは地域の関係構築の場になっている。地域の「ハレ」の日やそこで語ることが地域の再生の一步となっている。

目標

○大学生が参加してキリコを運行することで、秋祭りを盛り上げる。
地域の人が宮地らしさを感じてもらう。
地域の人が語ることができる場をつくる。

方法論

震災により地域コミュニティにいる人たちが、個人的、経済的、文化的、政治的なエンパワメントを阻害されている状態であると考えた。基本的な権利を実現するための評価枠組みである「潜在能力アプローチ」の視点から、特に「個人の生活、家族との生活、そして社会的な生活を楽しむこと」と「自分らしくあり、自己表現を行い、自尊心があること」に注目した活動を行った。具体的には、秋祭りでは地域の誇りであるキリコを運行した。また、地域住民の祭りに関わる生活史のインタビュー調査を行い一人ひとりの生活をインタビューし、地域に生きる思いの発言を集めた。

結果

キリコまつりでは地域の人や学生だけでなく、能登の復興支援に来ているボランティアの団体や個人も参加し、交流の場が生まれた。また、地域のかたとの震災時のことやその後の生活、まつりや地域の歴史についてインタビュー調査を行った。学生はまつりを体験し、地域の人との語りを聞くことで改めて地域のことを知り、自分達の視点から言葉や写真で地域についての記録をおこなった。それぞれが感じた課題や魅力をまとめた成果物をつくり、貴重な学びの機会となった。最後に、2年生が作成した「宮地記録集」に学生が書いたことばを紹介する。「私たちは歴史あるキリコ祭りに参加させてもらったことで、宮地の魅力をたくさん知る事ができました。宮地の皆様が快く迎え入れてくださり、人のあたたかさを感じ楽しみながら活動することができました。この活動を通じて、宮地が私たちにとても大切な場所となりました。この貴重な経験や感じたことを記録として残すとともに、宮地の皆様に感謝を伝えたいと思いこの「宮地記録」を作成しました。」

活動報告

今年度は、復興の第一段階として地域住民のエンパワメントを意識した活動となった。アイデンティティの再確認や学生参加者のコミットメントの形成を目的として、交流と会話の機会をと外部発信に取り組む。特に震災以降、地域を離れていた日常の生活に不便を抱えている人とともに、地域の文化である「祭り」の時間を共有し、地域の再生を考える契機とした。

また、自分たちが地域の人と話をして学んだ内容を、まつりに参加していない他学生に伝えたり、自分たちの学びの内容を伝えることでまつりや宮地の地域にたいするコミットメントを醸成した。また、情報発信を行いながら、地域との継続的なかわりを生み出す仕組みづくりについて検討した。

9/19(火) 活動内容：交流サロンの実施・キリコ祭り当日
11:30 宮地地区到着
13:00 宮地地区散策・白山神社参拝
14:00 ①交流企画「ふれあい室」：ゲームや工作、喫茶など
②キリコ準備（キリコ準備・楽器練習）
21:00 宵祭り、キリコ運行開始：地域のキリコ運行、神事
24:00 就寝

9/20(水) 活動内容：インタビューと秋祭り
8:00 朝食・施設等清掃
10:00 地域の祭りに関する住民インタビュー調査
13:00 秋祭り（本祭）
15:00 宮地地区出発



考察

<成果物>

①金沢星稜大学HPの記事発表

・キリコ運行活動報告

・宮地地区の現状と調査内容報告

対象：星稜大学生、保護者、高校生

⇒震災後の生活やまつりに対する地域の人の声を大学HPで発信し、宮地地区への関心を高めることで地域に対する自信と安心な生活への期待を持ってもらうことを目的とした記事を作成した。

②記録集の作成

対象：住民向け無料

⇒冊子を作成し宮地地区への配布、地域を訪れ、まつりを体験した学生のコメントや地域でみつけた魅力をまとめた記録集。

③宮地新聞の作成

対象：大学生向け資料

⇒大学構内に掲示し、奥能登地域で発見した内容や奥能登震災のことを忘れて欲しくない、という地域の人の言葉を掲示した。宿泊施設春蘭の里にも掲示。

<成果物>

①金沢星稜大学HPの記事



<成果物>

②記録集の作成



<成果物>

③学生向け「宮地新聞」の作成



1. 活動の要約

今年度は、地域住民のエンパワメントや学生参加者のコミットメントの形成と外部発信に取り組んだ。特に震災以降、地域を離れていたり日常の生活に不便を抱えている人とともに、地域の文化である「祭り」の時間を共有し、地域の再生を考える契機とした。

震災により地域から離れてしまった住民が祭りを通じて地域の歴史を感じたり、話をする機会をつくることに取り組んだ。そのため、キリコ運行だけでなく、地域の方が訪れ大学生と交流する「交流室」の運営や、地域の方の住宅を訪問し、地域の歴史やまつりの写真をみせていただきながら、学生が地域生活や現在の課題についてインタビュー形式でお話を伺う「語り」の場づくりをおこなった。

2. 活動の目的

本活動は、震災復興の第一段階として、地域の伝統的なキリコ祭りを通じたコミュニティエンパワメントと、住民の生活や地域課題に関する聞き取りを通じた「語り」の場を創出することを目的とした。地域課題の聞き取りは、今後の復興支援に向けた基礎情報となるだけでなく、地域の生活や祭りに関する経験や歴史を住民自身が語る機会を提供し、地域への愛着を言語化する場ともなる。エンパワメントにおいては、自己の存在を肯定することが重要であり、それが他者に受け止められることによってさらに力となる。このため、本活動では学生が住民から話を聞くインタビュー調査を行い、その内容を地域にフィードバックすることで、外部視点から見た地域の魅力や課題を共有する取り組みを実施した。

また、震災からの復興に向け、地域住民が宮地地区に住むことを誇りに思えるような活動を展開した。キリコ運行は、長年地域の文化や季節の行事として親しまれてきたもので、住民にとって地域への愛着や継続への葛藤を象徴する行事でもある。この祭りを通じて、地域住民や学生だけでなく、外部からも多くの人が関われる場を作ることを目指した。同地区では高齢化や人口減少が進み、住民だけのキリコ運行が困難となり、祭りの記憶が薄れつつある。神崎ゼミと「春蘭の里事務局」は2022年から連携し、祭りの歴史や文化を学びつつ、キリコ運行時の笛や太鼓、シャンギリの御囃子の記録映像を撮影するなどの活動を続けている。2023年には学生が実際にキリコの準備や運行、安全管理や声掛けを体験した。このような取り組みを通じて、学生や地域支援者が協力し、キリコ運行を通じたコミュニティのエンパワメントを目指した。

学生はキリコ祭りの準備・運行・記録に携わり、地域文化を体験するとともに、交流室の運営やインタビューを通じて住民の語りを収集し、地域資源や課題を再発見し発信する活動を行った。

3. 活動の内容

3年生ゼミ生、特にプロジェクトチームメンバーを中心に、4月以降、ゼミナール時間にグループ内議論やオンラインミーティングを行い、以下の日程で現地訪問による打ち合わせや活動、調査を行った。現地訪問に諸活動以外にも、インタビュー内容の検討、調査結果のとりまとめ、インタビュー調査、祭り参加の依頼文章の地域内回覧、受け入れ機関との事前打ち合わせ、祭り当日の必要な準備物、宿泊施設など、当日のみの参加学生の受け入れ準備についても確認業務などを行った。

7月20日 まつり等準備活動：受け入れ機関である「春蘭の里」との打ち合わせ、地域へのまつり学生参加の依頼



9月19日 交流サロンの実施：地域住民との交流を行った（写真上段）



宵祭りにおけるキリコ運行：キリコの準備、祭りの運営、地域外参加者のサポート



9月20日 住民インタビューを実施：地域の生活や歴史、地域資源、課題について住民の「語り」を記録した



10月以降 記録作成と発信：住民の語りや祭りの様子を写真や文章で記録し、大学内の掲示物として掲示したり、パンフレットを作成して住民に配布する（報告書作成時点では準備中）。また住民参加型ワークショップや祭りの記録を大学ウェブページで発信し宮地地区を知らない人にも関心を持って貰うことを意識した情報発信をおこなった。＜参照：成果物＞

4. 活動の成果

コミュニティの絆の強化：

住民と学生が共に活動することで、地域内外の連携が強化された。

地域文化の再発見：

キリコ祭りを通じて地域資源の価値を再認識する機会となった。

記録の公開：

「宮地記録」やウェブコンテンツを作成し、祭りの様子や住民の語りを広く共有することで、地域外からの注目も集めることができた。

<成果物>

①金沢星稜大学 HP の記事発表

対象：星稜大学生、保護者、高校生

- ・キリコ運行活動報告
- ・宮地地区の現状と調査内容報告

⇒震災後の生活やまつりに対する地域の人々の声を大学 HP で発信し、宮地地区への関心を高めることで地域に対する自信と安心な生活への期待を持ってもらうことを目的とした記事を作成した。

②記録集の作成

対象：住民向け飼料

⇒冊子を作製し宮地地区への配布、地域を訪れ、まつりを体験した学生のコメントや地域でみつけた魅力をまとめた記録集。

③宮地新聞の作成

対象：大学生向け資料

⇒大学構内に掲示し、奥能登地域で発見した内容や奥能登震災のことを忘れて欲しくないという地域の人の言葉を掲示した。宿泊施設春蘭の里にも掲示。

<成果物>

①金沢星稜大学HPの記事



<成果物>

②記録集の作成



<成果物>

③学生向け「宮地新聞」の作成



5. 今後の活動計画

今後は、以下の活動を展開する予定である。

継続的な記録活動：

地域住民の語りや文化的活動を継続的に記録し、保存する。

地域資源を活用した交流イベント：

震災復興をテーマとしたワークショップや交流イベントを定期的に開催する。

地域外への発信：

作成した記録や成果を発信し、地域の魅力を広く伝えとともに、新たな協力者を募る。地域外に出た人に情報を届け、地域の復興を考えるためにどのようにすればいいか、地域の祭りを継続的な活動にするための仕組みづくりについて検討する。

ゼミナールは人的資源管理を専門としており、自分たちが学んだ内容を祭りに他学生にレクチャーし、参加者のモチベーションづくりやコミットメントの醸成、継続的な活動の仕組みづくりについて検討する。